煙草傳来之諸説

洋学文庫
文庫8
C 454

煙草傳来之諸説

めざまし草抜

昔時慶長の何比ぞ異國人のさくに粧来

何しか頃をしめて其種子をうゑし

41- 7976

とぞ又乾ける葉を巻て笠のさゞとくに
一頭に火を燃じ一頭より火きを吹て
蒸服するなりと猶ほ以前の事
なるべし さてもろもろに倍し始ハ
明の萬暦の頃名まゝ是を服する者
何り常槙に和らぎて此頃さまの多の
りしと云又韓人の伝へる書
にハ近年始て倭國に出と云き張氏
が朝鮮志にもはじめて見つと載る

をもつて考きを古より朝鮮に傳へ
より也ハ此はじめしやうにも
きこゆ又明の末初て西洋人其種を中
國に帯じ来るといふる説も何きを彼
より我國より伝へ始じて
南子西より始じ廣土へも傳へ多る一の
古より朝鮮廣土へも傳へ多る一の
和漢大抵其時世を同らしてすべて
我國も廣土に先ゝ多てる欲とも思る何
にまき二百余年末の事ハ多なきと

いづる名は世界の一名にして何きの地まで
も通称とゆう名まぢも傳来のもじの
ハ〻さ〻の異名をよび延命草長
命草の類なるひも丹陽形多葉大
茅のなり〻字もて直用し又語りて
萱蓋をもてさいきに作るし名ぐひ色
煙草の名は烟張ぐ露草とゆう
に見申とゆうさて錦里先生の考に
此名は李太白の

想思草如煙とゆうる句より出るべしも
医書には本草詞詮とゆう書にもじめて
煙草の名を出きし甚書さいに張りて
陰は雅俗ともに皆此文字を直用する
事と申きて和名の書には無く仰と
実とを無ぜり古をを前後の諸書にも
詳にさいきを視よ志め物しる まこと
申うべ

崑崙奴象を御あぐ巻の内を吸ふ圖

内きハ文化癸酉の夏長崎一船来牝象の寫真也

清朝人吃煙圖

竹煙ヲ把ルハ下官ナリ

和蘭人食煙圖

奴隷鳥鬼銀盆に
唾壺と手爐とを載
て側まゐらす

阿片烟を吸ふ圖

ニに困ずるを清商阿片煙を吸ふ状あ
阿片を交へる多きを短き烟管に
盛り燈火まで吸つを臥床に臥して
心を鎮め吸ふ度服する度一炷香の間充
其廻りを用ひ人を拂ひ閑にして二三
服も吸ふなりそもそも起き出きを腫
眠を催すと雖も微夜の作業も出
来ると也ども長崎にて加味楽針
の役を勤め貢献風俗方位等を研究
るをつうさこでる人の表示却り但一度
此法を用ひ卒よ止る空記八其身に害の
り空て上陸の後旅館に在るの習もあり
見を薫服する俗長崎の荒木
氏目の何ぞ見しを図して聯き
桜ぎるに印度地方にて八阿片一味
を薫服する風習あり没して後暫
時皆憤といへども服後八精神快
爽直ち眠を催すと却てさいろう

すこしよく遠行あるべし隨意にして其
業しむと限り無し只大人の
絶聞せるものなり氏哇人俗好吹阿
片不至昏醉則不已と白石先生の著
書に見へたり此阿片も
彼方傳へ轉法あるべし
毘婆沙律は陀婆閣を煙草也陸地に生ず四分律
に比丘風を患ひ煙筒を作りて煙を用ゆ其外煙
を嗅て疾を治する事こゆたい今の烟草とい
ふとあるべし其阿片の類に行るにや但外の薫菓に
やはのうゝごくをまつ
此説は非阿片多し常の煙草なり
和蘭の書にすて萬國の事をうゝ
るに外煙草とりものは北のアメリカ洲
さいりゝ世界ヨリ多くバコ草とりゝ嘗あり其
地にあり出し草なりを二百拾年
の昔元うろつをやりゝ世界の某の州に
三コツ上とりくるん其嶋の産をとり出
旅して其國にうゝ移しうゑしに拾て

夫れ其世界につらなる六きよして東の
方。何ぐ何。やしつる世界にも傳へつゝに其
國に屬せる事のみ記しぐ〳〵の六の國とも
ろさし〳〵つゝ傳りり数年那ふにして
今ハ世界のうぎ〳〵西に来に南北の夫ぐ遠
にしろざり國の内地ハさらなり元きに屬
せる遠近大小の寶〳〵といへども六きを
用ひざるものも名ハ皆為ることを称り
ぞで是ぞ此ものの傳来の的證那りもり

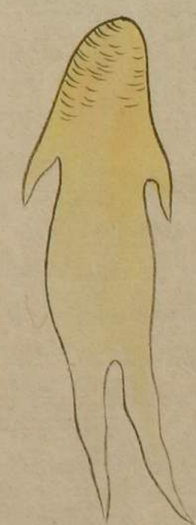
以上めざまし草のうちより抜書

鳳凰城

鳳凰城ハ人参ノ極品ナリ
朝鮮ニ龍頭山アリ其山ノ
南ニ産スル人参ナリ此山ノ
北ハ唐也北ノ方ニ産スルハ
次品ナリ

羊角人参

此人参モ唐人ノ持渡ル
モノニテ佳品ナリ肉アヒ
明徹シテ瑪瑙ニ以タリ
何レノ地ヨリ出ルヲシラズ



長崎聞見録

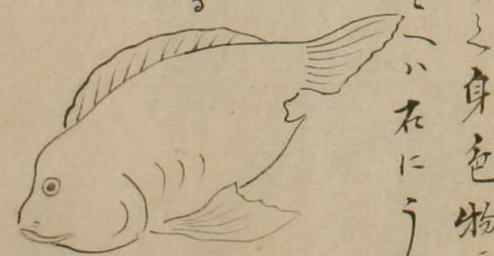
飛魚

飛魚長一尺斗鳥の如く
矢面ヲ飛或ハ大魚飛魚
の新ヲ伺ヒ口ヲ大ク喰
ちんとする
に遇ハ怒
きて去きりに
高く飛ぬ
昔時紅毛人の
舟に飛ツタリ
ゞて おきゝ
ゝるゝ 何と
いふ

薄里波

用りて

薄里波ハ長ケ一丈斗あ〻て全躰
矢留のごとく身色物に随ひて
眩微丈多と人ハ右にうつきバ
右の色邪
薄にうきバ
薄の色とある
類邪



ラガル

○長三尺名を忘れたる者ラガルの腹下を刺す殺す又陸に一奇物行形ち蒐のかきものにしラガル其外大獣の口を開くを伺ひ恣に我入テ腸を食ふ諸大物これに噛るきバ苦しみて皆死す又雑腹蘭と云草行寒熱の人を拉ばけバラガル恐れて来らすと者

○ラガルハ夜国海中に居る長ケ二丈斗り尾長く鱗甲の堅き事金石に勝る鎗刃も破る事能はず齒鋸の如く足に鋭き爪有り其性至って猛悪諸魚を取りくらふ時に陸に上り獣ダモ追ふ又人を喰ふ只行歩遅きを以テ獣物幸に逃避て海中にて小甚疾行す然きども又細小の魚を喰らふ小魚数百種常にラガルに随ひて他魚に呑食するの害を避く子を生するに大さ鶏卵の如し一と云其陸に上る時涎沫を吐く大毒氣有りて人畜誤って是を踐めバ即斃るさのラガル高キ声有りて人を見きバ怒りて叫鳴す只其腹に二尺斗柔らかなる赤行一魚○

野牛

野牛ハ唐人番人食料とする物稲佐山邊に飼ひ置て唐人番人にうる事有り其形大に三倍す家に比すきバ甚小きもの也味も又ぶたに及ばず然きども五つて温物なきバ嗜しむ者多きを以て家ゝ高價也

毛皆白色也よく人に馴て食ふに恐ひさるもの也

麝香鼠

麝香ハもと唐より渡り多るものにて長崎にあり他国に生見ぬものなり此鼠常に香有り昼ハ眠見へうるく夜鳴その声鼯鼠に似多り長崎の人此鼠の事を少き肌とてよろこぶ也

烟草切庖丁

烟草切庖丁といふは長崎の方言なり
其実若き者は大サ厚サも
実に烟草切のごとく脊のうへ
青白腹のうへ次第に白色
奇麗なる魚なり形ハ左に
図するごとく那り

播州尼ヶ崎にて
鏡魚とよぶもの
なり也

長崎聞見録

唐冬瓜

唐種の冬瓜ハ唐人敍内抔、唐人自ら作りて食料
ゝ成るなり至て長大也ハ口切にして差渡し一尺四
五寸ばかり長三尺四五寸日本にて作る冬瓜に比保色
の上白粉ありて彼地の冬瓜にハ白粉ハなし

大海奇物

仁魚

仁魚ハ大魚にて長サ四五丈ばかり悪魚船を害せんとするに仁魚来りて能く船を保護し悪魚近づかざるも或ハ悪魚の弱魚を喰んとするを又よく保護し喰ハしむ意を以て漁人此魚を捕ふる事と禁ずるとゝ

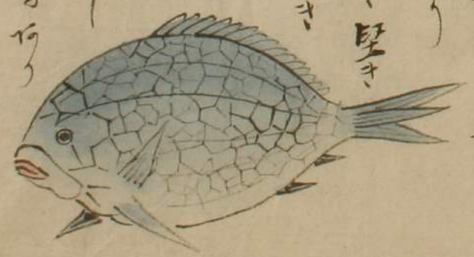
右圖説
長崎見聞録

獅子頭金魚

此金魚ハ其頭獅子に似タルを以て名づく稀なる名魚にて其價も地魚に百倍せり長崎に嗜持人供あり面白き魚也

右圖説
長崎見聞録

松子魚（コッカサノウオ）



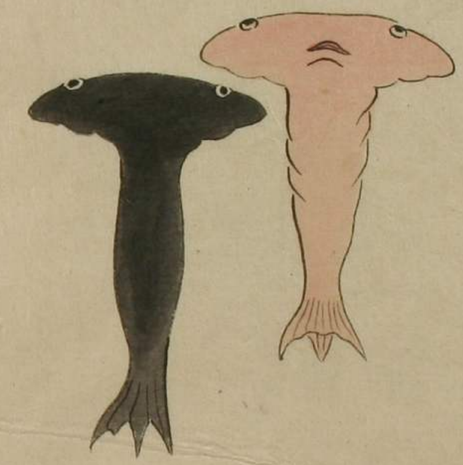
松子魚ハ長崎にあり尤偏麟所々六角至つて堅き皮あり甲ぶき皮を剥て食ふ味美と云べし大きさ四五寸ばかり

松子魚ハ長崎の方言也京にてハ鯛むこの原ハとなづく漢名未詳

鍾木鱶（シエモクブカ）

長崎の人まゝこのせのみそとす

漢名 儀鬐魚



きゝだち

長崎の人きゝだちと其形姫（ヒメ）に似て黄色あり味ひ至て美おるものなり

落斯馬（らしま）

長さ四丈斗前に短き足あり

罕に海面に浮び出る事有り

鱗甲堅実にして刀鈍も

破るゝ事なし額

頭に両角有り曲るゝ

鈎の如し角

を岩石にうちて

深るとなり

航（ガウ）魚

大甲の類なり大さ五づゝに

一尺斗甲殼蛤に似て六足

行り行んとすれば甲殼を舟

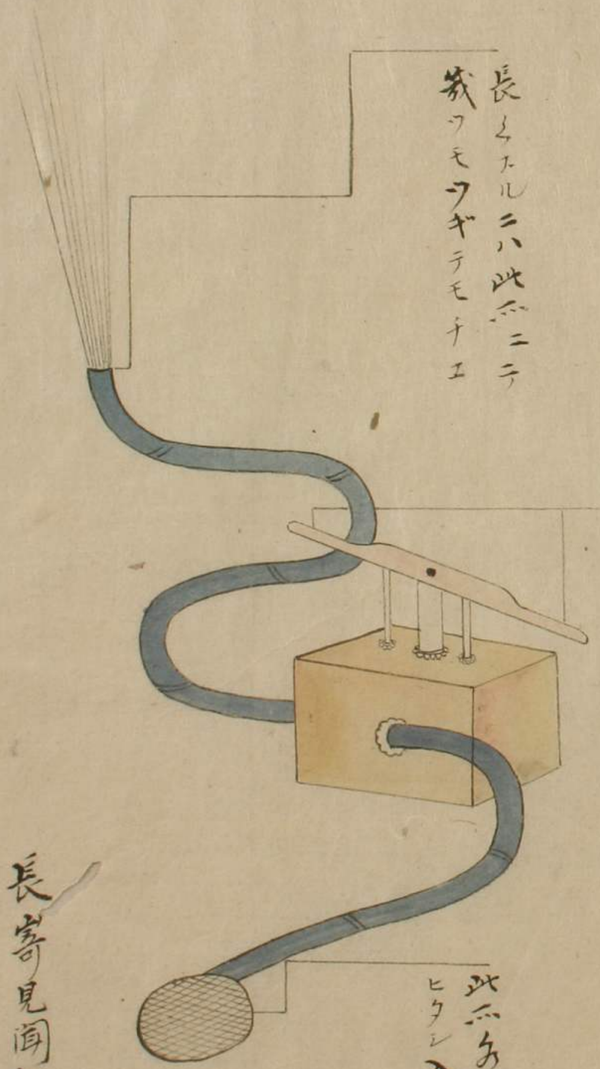
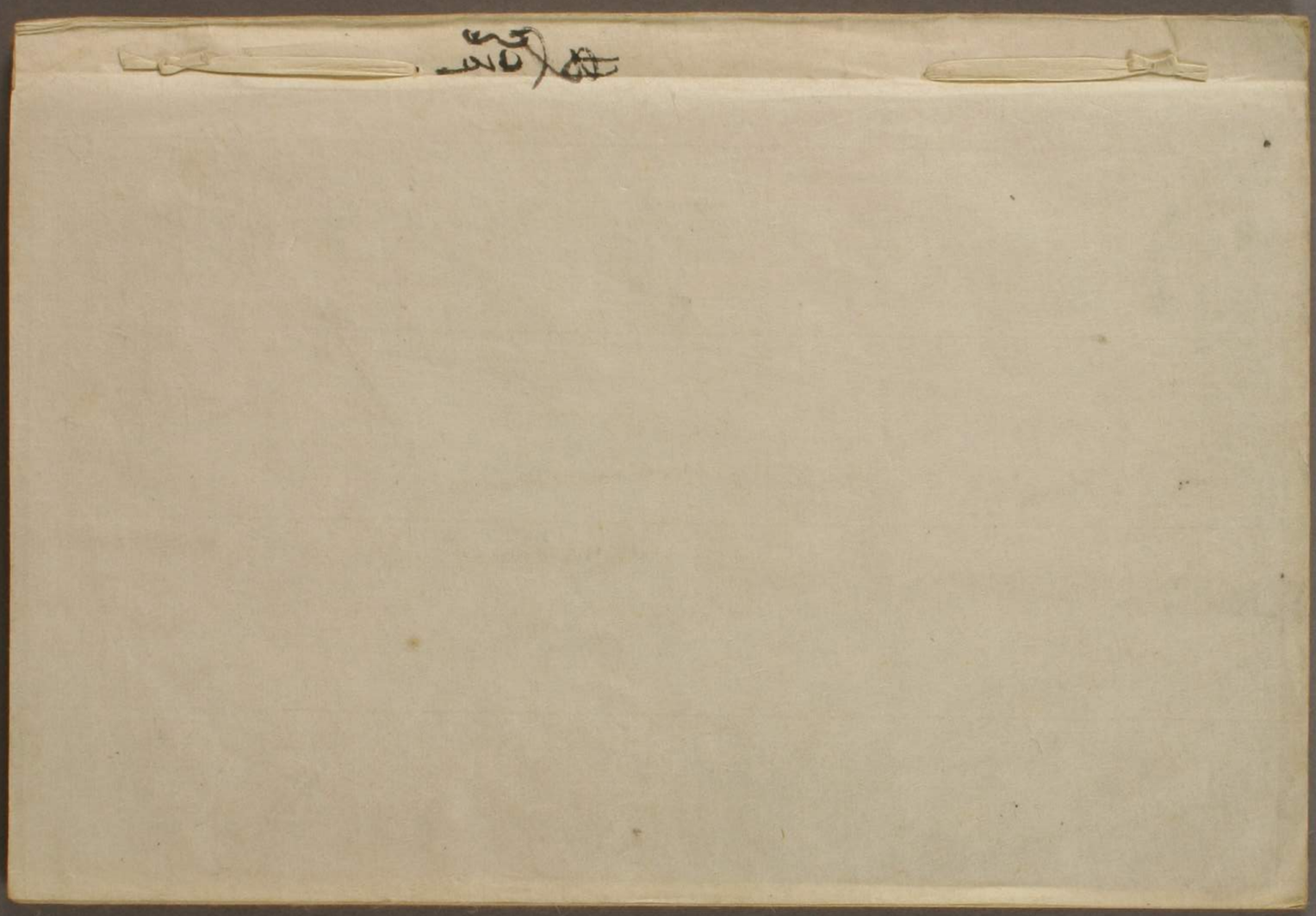
となし一足を帆として流

れに走こゝうしてゆくとなり

海女　人魚也

半身以上ハ女人ニ
類シテ半身以下ハ
魚類也人魚の骨ハ切能
下血を留る妙薬也
蛮語にヘイシムトルト云紅毛人
持来る事有

水揚奇器



長寿見聞録